

障害のあるAさんとの暮らしづくり

～ Aさんとサッカー(アイスサッカー)をしよう～ < 5歳児 >

目的 障害のあるAさんとの暮らし方の違いに気づき、共に楽しく過ごせる暮らしづくりを考える。
愛される喜び、役に立つ喜びを感じ、共に生きる喜びを味わう。

<気づく>

Aさんってどんな人 ー 出会いー

- ・ 全園児がAさんと出会い、顔や名前を知る
- ・ いっしょに歌ったり、手遊びをしたりする
- ・ 一人ずつ握手する

初めて出会うAさんに気持ちを寄せる。
声、手のぬくもりなどを通して、Aさんに親しみを感じる。

【留意点】

教師自らがAさんを温かく迎え入れ、Aさんとのかかわりのモデルとなるよう心がける。

障害者に関する絵本

手話を交えての歌
「きらきら星」
「手のひらを太陽に」
「あの青い空のように」
「緑の風と青い空」
など

Aさんと一人ひとりが
握手を通して出会う場
(スキップ)

<広げる深める>

Aさんといっしょに遊ぼう

- ・ 幼児の遊びに参加してもらう
(木工遊び、粘土、お絵かき、サッカーなど)
- ・ Aさんに絵本や紙芝居を読んでもらう

Aさんといっしょに遊んで楽しいと感じる。
Aさんの生活の仕方やよさを知る。

【留意点】

幼児が楽しいと感じていることをいっしょにすることで自然なかかわりがもてるようにする。
Aさんの活動の様子やよさを教師が積極的に幼児に伝えていく。
幼児とAさんが、自然なかかわりがもてる位置関係を工夫する。

向かい合う関係
・ 顔と顔を見合わせて共感できる位置関係

並び合う関係
・ 互いの様子が自然に伝わりよい刺激となる位置関係

Aさんが活動しやすい高さの台

<計画する>

Aさんとの暮らしを考えよう

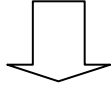
- ・ いっしょに楽しめるサッカーをAさんと相談して考える

Aさんとの生活の仕方が違うことを知って、自分にできることを考えようとする。
共に楽しく遊べる遊びや、遊び方をAさんといっしょに考える。

【留意点】

Aさんの思い、教師の願いを事前に語り合う機会をもつ。
Aさんや幼児の思いを、教師が媒介となるだけでなく、直接伝ええるように援助し、かかわりが深まるようにする。

オリンピックなどのスポーツ競技の写真
遊戯室でのサッカー
・ 全体が見通せる広さの確保
・ Aさんにとって動きやすいコート
の広さ



<実践する、振り返る>

Aさんとサッカー(アイスサッカー)をしよう

Aさんが心地よく生活できることをいっしょに暮らす仲間として共に喜ぶ。
活動するなかで、より楽しくできる方法を考えていく。

【留意点】

Aさんの得意なこと、幼児といっしょにできることなどを見極めて活動内容を組み立てる。

役に立てる喜びを幼児と共感し、意識化し、すすんで行動に示していく。

(スロープをわたってみるなど)

常にAさんや幼児の思いが活動の中に生かされるよう、必要に応じて相談する機会を設ける。

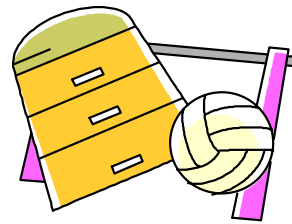
いっしょに考えた遊びをどう終わらせるかを工夫し、やり遂げた喜びが共感できるようにしていく。

「アイスサッカー」とは

車いすのAさんとサッカーをした子どもたちがつけた名前である。車いすのAさんと子どもたちがサッカーをするために、スティックを使う特別ルールを考えた。

ちょうどそのころオリンピックでアイスホッケーが紹介されており、そこから子どもたちは「アイスサッカー」と名付けた。

手作りの
サッカーゴール
スティック
表彰台
メダル
など



【学習を進めるにあたって】

・障害のある方との交流は、さまざまな方法があります。
障害によって、子どもたちとの出会わせ方や活動の方法も変わってきます。
子どもたちが、障害のある方に対して自然なかかわりができるよう、学習の環境を整えていくことが大切です。

・子どもたちが、障害のある方との交流を継続していくことに、この活動のよさがあります。地域にかかわりのある方で、継続的に子どもたちにかかわってくださる方の協力が得られるような地域との連携が必要です。